

♡ ことばの力 ♡ からだの力 ♡ こころの力

園長室だより

城南学園幼稚園 園長 太田友子 令和2年8月24日

「小学校につながる確かな学びの基礎を培う」幼稚園



2学期が始まります！

～ 万全な体調管理で登園を～



猛暑の夏休みでしたが、お変わりございませんか？玄関のハイビスカスの花が、美しく咲き誇っています。

この夏、コロナ感染拡大の状況が一層厳しくなる中、保護者の皆様には、殊の外、お子さんの健康管理にはご苦労されたことでしょう。重ねて、熱中症も心配される酷暑が続いています。

さて、今年は、例年より1週間ほど早目に2学期を始めます。子どもたちの体調に応じながら、無理をせずに保育を進めていきたいと思えます。

つきましては、保護者の皆様には、これまでどおり、毎朝の検温など、健康観察に十分にご留意ください。

例年と違いますので、念のため、早目に休ませることを、是非心掛けてあげてください。

夏休み日記 - 昆虫採集 -



この夏は、昆虫採集三昧でした。早朝からセミの声に虫網をもって出かけました。私のお相手は、5歳の男児と10歳の女児です。近居の孫たちです。「クマゼミ」は数えきれないほど採りました。近所の里海公園にある小川では美しい「しおからとんぼ」を、玄関では美しい「かみきりむし」を、庭のみかんの木には産卵にきた「アゲハ蝶」などなど。繰り返し探しているうちに、昆虫の生態や習性も分かりだし、10歳児が昆虫図鑑を使って考察を深めています。5歳児はとにもかくにも捕まえない！の一心。汗だくになって走り回っています。私も先頭になって夢中！虫網の修繕に精を出しました。ご近所の方々からも、「ぬけがらあげようか！」とお声を掛けてもらえるほど有名？になりました。憧れの「クロアゲハ」は来年までの宿題です。

幼稚園でもセミを捕まえては、子どもたちに手で持たせて、「ほら、一生懸命生きてるでしょ！」とお話します。迷わずつかめる子、こわごわ覗く子などなど。

生き物に触れる機会が少ないと言われるのですが、少し意識するだけでたくさんの「いのち」に気付くことができますね。この暑さの中、みんな「生きてるんだ！！」



総合学園の附属幼稚園

- 学生・保育者も育つ

幼稚園をめざして -

城南学園は、保育園から、小学校、中・高、短大、大学、大学院まで有する、幼児教育を柱の一つとする総合学園です。

今年はコロナ感染拡大防止のため、例年どおりとはいかないことが多いのですが、教育実習やインターシップなど、高校生から短大・大学・大学院生までが学びにきます。本園の教員は、実習生を受け持つという重役も担っています。

「子どもってやっぱりかわいいなあ。」

「保育者って、子どもと遊ぶと思っていたけれど、それだけでなく、いろいろな仕事をしているんだなあ。」

「想像以上に大変なことが分かったけれど、やっぱり、保育者になりたい！」

と、子どもとの関わりから始まり、やがて、保育者の多様な役割に触れ、保育者たる職業の重みに気付き始めます。その時、現場の保育者たちが、嬉々として働いている姿をまのあたりにすることで、「保育者」という職業の魅力に触れることができるのです。

私は、現在、短大教員も兼任しており、保育者養成の段階と、現場で保育者育成の段階を担っています。まさに「学びつづける資質・能力」を養成段階からいかに育むかが研究課題となっています。

保育者は子どもが好きでないとできないけれど、好きだけではできない…とよく言われますが、「子どもが好き」という意味には実に奥深いものがあります。

私は、「子どもが好き」と言う表現はあまりしません。「好き」というより、「人として」実に魅力的で、楽しい存在としてとらえています。言い訳しないで懸命に前を向いて生きている、その姿から、忘れかけていた大切なことに気付かされたり教えられたりするからです。

学生も同じです。自信がなくて不安ばかりが募る過敏な時期を迎えていますが、先日、ある学生から「講義の中で先生の子どもや保育者に対する熱心な気持ちに触れて、心が浄化されていくようでした。オンラインのため対面での授業は叶いませんでしたがありがとうございます。」という声が届きました。不自由な学習環境の中でも真剣に保育者としての道を学ぼうとする学生の姿に元気をもらいました。

しみじみ、子どもや学生たちから「懸命に生きる」ということの尊さを教えられた今夏でした。

